2023（令和5）年度　東北アジア研究センター共同研究報告書

提　出　2024(令和6)年4月21日

代表者　　程永超

（本報告書はセンター内外への公開を原則とします）

研究題目	和文）東北大学狩野文庫所蔵朝鮮通信使関係資料の基礎的研究 英文）A Basic Study on Manuscripts Related to Joseon Missions to Japan in the Kokichi Kano Collection			
研究期間	2021（令和3）年度　～　2024（令和6）　年度（4年間）			
研究領域	（C）移民・物流・文化交流の動態			
研究組織	氏名	所属・職名	専門分野	役割
	程永超	東北アジア研究センター・准教授	17～19 世紀東アジア国際関係史	通信使筆談唱和集の分析
	片岡龍	文学研究科・教授	日本思想史、東アジア比較思想	通信使と日本儒学者との交流の分析
	池内敏	名古屋大学人文学研究科・教授	日本近世史、近世日朝関係史	通信使来聘関係記録の分析
研究経費	学内資金	センター長裁量経費 300,000 円		
	外部資金（科研・民間等）	なし	［小計］	
	合計金額	300,000 円		
研究の目的と本年度の成果の概要 (600-800 字の間で専門家以外にも理解できるようまとめてください。)	本共同研究の目的は、狩野文庫に所蔵されている朝鮮通信使関係史料を整理し、日本や韓国さらに世界各地に所蔵されている史料と比較し、書誌的な情報を究明する上で、通信使と日本の儒者との筆談唱和について系統的に考察することである。これらの資料を通じて、林家や新井白石をはじめ、通信使と儒学者との交流、ひいては東アジアにおける文化交流などについても考察する。こうした多面的な文書活用によって、近世日朝関係史や東アジア国際関係史のみならず、東アジア思想史などにおける新知見の獲得を期待している。 本年度はまず東京都立図書館に所蔵されている『朝鮮通信総録』（中山久四郎旧蔵資料、1 冊のみ）の調査を行った。その内容は狩野文庫本・徳川林政史研究所本・内閣文庫本の「書簡式」の一冊とほぼ同じであるが、中山久四郎によるメモや張り紙と思われるものが残されている。これらには「外蕃通書ニ収ム」・「朝鮮信使来聘往復書ニ収ム」・「酒井家所蔵ニ同じ」などの文字が見られる、これが中山久四郎による書契の出典調査の成果と考えられる。 そして、本課題と深く関わる松本智也氏の新著『〈文事〉をめぐる日朝関係史—近世後期の通信使外交と対馬藩』（春風社、2023 年）の書評を通じて、通信使研究及び東アジア思想史における新知見を得た。今後の課題として、具体的に（1）松本本では、易地聘礼に先立つ宝暦度通信使(1764)を例に挙げ、通信使の使行日記（『乗槎録』『日観記』）を精査し、宝暦度通信使唱酬諸人一覧表を作成したが、これをさらに発展させて通信使と筆談唱和集を結び付け、日朝交流の人的ネットワークを深掘りすべきであること、(2) 松本本では、文化度通信使との接触が寛政異学の禁後に学問(朱子学)の素養を持つ人材が活躍する場となったと評価しているが、「寛政異学の禁」が日朝交流史における役割をさらに究明すべきであること。			
本年度の活動における東北アジア地域研究としての意義につ	朝鮮通信使は朝鮮から日本に派遣されている外交使節であり、日本史・朝鮮史・日朝関係史のみならず、東北アジアの歴史においても極めて重要な役割を果たした。今年度の成果は、日朝関係史や近世東アジア文化交流史の多角的な解明に役立つものだと考えられる。			

いてアピール				
研究集会・企画	研究会・国内会議・講演会など：0 回		国際会議：0 回	
	研究組織外参加者（都合）：0 人		研究組織外参加者（都合）：0 人	
研究成果	学会発表（3）本	論文数（0）本	図書（0）冊	
専門分野での意義	［専門分野名］ 日本近世史、日本思想史、東アジア国際関係史、日本美術史	［内容］ 本研究は狩野文庫に所蔵されている朝鮮通信使関係史料の整理を通じて、世界各地に分散されている朝鮮通信使関係史料と比較・連携して研究することができる。		
学際性の有無	［有］	参加した専門分野数：[2]分野名称[日本史、日本思想史]		
文理連携性の有無	［無］	特筆事項：		
社会還元性の有無	［無］	［内容］		
国際連携	連携機関数：0		連携機関名：	
国内連携	連携機関数：1		連携機関名：名古屋大学	
学内連携	連携機関数：1		連携機関名：文学研究科	
教育上の効果	参加学生・ポスドクの数：		参加学生・ポスドクの所属：	
第三者による評価・受賞・報道など	特になし			
研究会計画全体のなかでの当該年度成果の位置づけと今後の課題	今年度は二年目であり、整理された史料を活用し続ける年であった。朝鮮通信使に関する最新成果を書評することにより、今後の課題が明らかになった。 次年度の課題は以下のとおりである。 （1）狩野文庫本・徳川林政史研究所本・内閣文庫本・東京都立図書館本の『朝鮮通信総録』を引き続き比較検討する、 （2）研究代表者が在外研究を行うことになるため、世界各地に分散されている朝鮮通信使関係史料の発掘・比較・連携を行いながら、研究を進めていきたい。			
最終年度	該当[無]			

本共同研究に関わる業績（発表予定含む）

［学会発表］

「朝鮮通信使与歴聖大儒像」東アジア文化交渉学会第 15 回年次大会、2023 年

「書評 松本智也著『〈文事〉をめぐる日朝関係史 ―近世後期の通信使外交と対馬藩』（春風社、2023 年）」第 22 回「訳官使・通信使とその周辺」研究会、2023 年

「일본에서 본 근세의 조중관계」（日本から見た近世の中朝関係）、シンポジウム「근세 동아시아의 소통과 교류」（近世東アジアの疎通と交流）、2024 年

［雑誌論文］

［その他］

＊ファイル名は KyodoRpt_年度_代表者ローマ字とする。二つある場合、代表者名の後に１，２と記入する（例

KyodoRpt_2013_oka1）。